

環境目的及び目標一覧表

環境目的	2019年度までの達成目標	担当部署	2018年度目標	
有機溶剤・PRTR物質 使用削減	全ての分野での水系塗料の開発	技術部	1) 土木用・防水用環境対応塗料の開発	1) 致命的な欠点があった品種については要因追及から再構築として継続。又、評価良好な品種についてはユーザーで実施工物件を選定中の為、この対応から商品化に向けての実績積み上げを目標に継続する。
			2) 道路用遮熱環境対応塗料の開発	2) 施工試験で挙げた課題に対応し、再施工試験で良好評価。実物件展開へ進めて行く方向となった。実績積み上げを目標に継続する。
			3) 建材用環境対応塗料の開発	3) 課題になっていた工程確立は施工試験の良好評価を経て仕様確立。次展開として他の建材分野にむけた塗料開発としてテマUPする。
			4) 特殊機能性環境対応塗料の開発	4) 実暴評価良品をユーザーで実スケールで施工し、モニター試験へ展開。一次評価(施工性)は良との事で、経過観察とその後の共同評価へと検討を継続。
	水系塗料の販売400t/年	営業部	水系塗料の販売360t/年	246トン(2018年度目標68%) 目標未達成
産業廃棄物の削減	廃塗料、廃原料の削減 2014年～2016年度実績平均(1391kg)に対し9%減を段階的に図る。	製造部	廃塗料、廃原料を管理の徹底で2014～2016年平均実績の6%減の1308kg以内に抑える	廃塗料、廃原料を管理の徹底で2014～2016年平均実績の6%減の1308kg以内⇒結果2,355kg廃棄指示にて未達成
	洗浄溶剤削減2014～2016年度平均16.76kg/tの9%減を図る	製造部	洗浄溶剤削減2014～2016年度平均16.76kg/tの6%減15.75kg/t	シンナー製造よりも塗料製造の比率が高まったことから目標15.76kg/tに対し17.09kg/tの洗浄溶剤使用となり目標未達成
一般廃棄物の削減	リユース転用2014～2016年通期平均実績2192kgの9%増とする	製造部	2014～2016年通期平均実績2192kgの6%増2324kgを目指す	2014～2016年通期平均実績2192kgの6%増2324kgを目指し結果2570kgで目標達成
省エネルギーの実施「消費電力の削減」	ガソリンの節約 15KM/L	営業部	15KM/Lを目標とする	14.69km/ℓ (2017年目標の98%)未達成
	エアコンの温度設定管理 夏場28℃ 冬場21℃ 省エネタイプ機器へほぼ変更済の為、2016年度結果8849KWHの現状維持を指します。	本社	8849KWH(2016年度を維持)	9623KWH/8849KWH (2018年目標の108.7%) 未達成
	最大電力量を280kW/h 継続維持する	製造部	最大電力量を280kW/h 継続維持する	デマンド管理目標280kw/hに対し最大277kw/hで目標達成
省資源活動	2016年度合計使用枚数(4700枚) 対比で5%削減(4500枚)	技術部 品質管理課	4550枚 3%削減(2016年比)	2120枚 (2018年目標の47.0%) 目標達成
	OA用紙使用2016年度5200枚から4800枚へ(8%減)	総務部	3500枚(目標を上回った為)	4650枚(2018年目標の132%) 未達成
	OA用紙使用2016年度1800枚から1400枚へ(9%減)	営業部	1400枚(目標を上回った為)	976枚(2018年目標の70%) 目標達成
	1. ITの推進(EDI30件)	営業部	1. ITの推進(EDI25件)	23件(2018年目標の92%) 未達成
	2. 請求書のメール化 全件	営業部	2. 請求書のメール化 170件	157件(2018年目標の92%) 未達成
	3. 納品書のメール化 全件	営業部	3. 納品書のメール化 170件	159件(2018年目標の94%) 未達成
	4. 受注請書のメール化 全件	営業部	4. 受注請書のメール 150件	135件(2018年目標の90%) 未達成
発注のメール化80%	総務部	発注のメール化70%	63.4%(2018年目標の90.6%) 未達成	